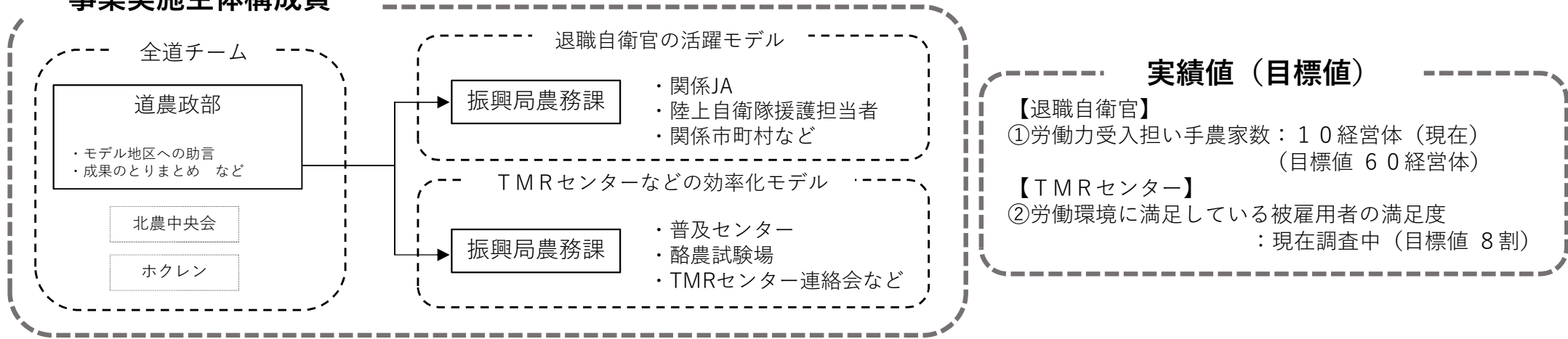


農家戸数の減少や高齢化により地域の労働力人口が減少し、雇用による人材確保が課題となっていることから、新たな人材の活躍を促す仕組みの構築に向けた取組を行う。道の出先機関である振興局を中心として、地域関係者ととも「退職自衛官の活躍モデル」と「TMRセンターなどの効率化モデル」の2種類のモデルに取り組む。モデル地区では、農業への雇用促進に向けた体験会やセミナー、労働力調査に取り組むほか、全道チームを設置し、各モデル地区への取組に対し、助言・推進を行い、地域での人材発掘や労働力を確保する自律的体制づくりを図る。

事業実施主体構成員



本事業での取組結果

※R3取組内容は下線部分

ア 労働力の需給状況の把握 (地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等)

【退職自衛官】 (2地区)

- 1 46経営体から回答
 - ・作業マニュアルの整備率は約3割
 - ・熟練者・オペレーターなどの技術者不足が課題
- 2 67経営体から回答
 - ・退職自衛官などの人材に感心がある経営体が約3割
 - ・大型免許などの免許資格を持つ人材を求める声が多い

ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

【TMRセンター】

TMRセンター等16事業者から回答

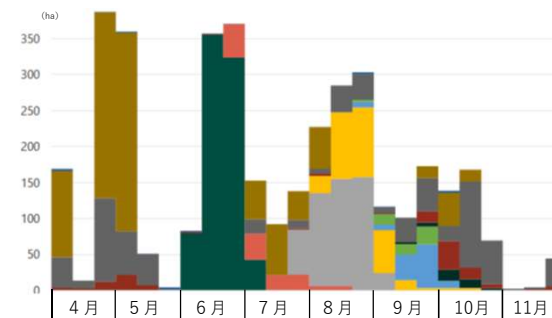
(課題)

- ・高齡化等で組織の持続性に課題（2030年には経営主の約3割が60代以上）
- ・牧草収穫等、繁忙期（4月、6月、8月）の人材確保、通年雇用が困難

(対応策)

- ・作業時期の分散など、農閑期対策の検討
- ・労働力の掘り起こし、融通の可能性の検討
- ・作業効率の向上による必要労働力削減の検討

時期によって作業量に差があり、繁忙期の労働力確保に課題



イ 労働力の確保・育成（情報発信等）

【退職自衛官】

- ・農業の仕事について、就職説明会や補導教育等で説明（R1～R3）
地域農業の特色や農業の仕事の種類などについて説明し、業務のイメージを具体化
- ・自衛隊援護担当者向けにコントラクター等の見学会を開催（R2）
機械作業などの業務を紹介
- ・退職予定自衛官向け農作業体験会の開催 計20名参加
R1：耕種作業 R2：酪農作業（搾乳・牛舎内清掃）
R3：育成牧場、コントラクター、選果場等の視察及び作業体験
農作業体験を実施し、併せて雇用形態や勤務条件などについて意見交換
* 作業体験を通じて、多様化する農業の仕事への理解促進
* 受入側は雇用する際のポイントについて確認

【退職自衛官の取組】



作業体験（搾乳）



作業体験（育成牧場）



試乗体験



意見交換

【TMRセンター】

- ・社会保険労務士によるセミナーの開催（R1）
- ・関係者検討会議を開催し、労働力確保の対応策について協議（R1～R3）
人材の募集方法や、地域全体で雇用の場を作り出す組織づくりなどについて検討

【全道チーム】

- ・雇用人材確保の取組事例などについて情報提供

ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化

- ・農作業体験と併せて求人の雇用条件等を提示

エ 農業の「働き方改革」への取組み（課題調査及びセミナー開催等）**【退職自衛官】**

- ・雇用就労セミナーの開催（R1、2）
労務管理に関する研修のほか、自衛隊援護担当者から自衛官の再就職状況等について情報提供

【TMRセンター】

- ・社会保険労務士による働き方改革セミナーの開催（R1）
- ・労働力に関する調査の実施（R2）
- ・社員に対する雇用環境に関するアンケート調査の実施（R3）
調査結果を各事業者にフィードバックし、改善を図る。

【全道チーム】

- ・取組報告会の開催（R3）
各モデル地区及び全道チームの取組について各関係機関で情報共有・意見交換をオンラインで実施。

本事業取組みにおける成果項目**【退職自衛官】**

- ・関係機関（道、自衛隊、農業団体など）による連携体制の構築

【TMRセンター】

- ・労働力不足の危機意識を共有し、課題を明確化

次年度以降の取組み内容

（予定）

- ・産地での労働力受入れに向けた体制整備
- ・産地間における労働力調整の検討